

2020年度

事業報告書

(第15期事業年度)



自 2020年4月 1日
至 2021年3月31日

公立大学法人会津大学

公立大学法人会津大学事業報告書

「I 基本情報」

1. 目標

(基本的な考え方)

公立大学法人会津大学は、会津大学及び会津大学短期大学部（以下「短期大学部」という。）を設置・管理し、コンピュータ理工学、産業情報学、食物栄養学、幼児教育学の分野における人材の育成や研究等を通じて、学問や科学技術の進歩に寄与するとともに、産業・文化の振興に貢献することを使命とする。

これに加え、東日本大震災からの復興、地方創生に貢献するため、法人を挙げてその実現を目指すものとする。

(基本目標)

会津大学

建学の精神として掲げる「to Advance Knowledge for Humanity」（人類の平和と繁栄に貢献する発明と発見）の実現を目指し、常に世界において先駆的な存在であることにより、我が国の将来と地域の発展に寄与する。

- 1 豊かな創造性と高い倫理観を備え、国際社会に通用する研究者・技術者、技術革新の指導者及び起業家精神を持つ人材を育成する。
- 2 国際社会をリードするコンピュータ理工学の研究開発を推進し、社会及び学術に貢献する。
- 3 教育、研究等様々な分野において、実用性・実効性を希求するとともに、地域特性をいかし、本県の産業・文化の振興に貢献する。

短期大学部

深く専門の学芸を教授研究し、職業又は实际生活に必要な能力を育成し、もって地域社会の生活、文化及び産業の向上発展に寄与する。

- 1 専門知識・技術を身に付けることにより、社会貢献できる職業人を育成する。
- 2 幅広い教養と高い倫理観を備えた人材を育成する。
- 3 地域に密着した生涯学習機会の提供を図り、知識基盤社会の形成に貢献する。
- 4 地域の産学民官と連携し、地域振興に貢献する。

共通

- 1 大学の特性をいかし、東日本大震災からの復興に貢献する。
- 2 人口減少や少子高齢化の進行を始め、国内外の社会経済情勢の変化に伴う様々な課題に柔軟かつ能動的に対応していく。

2. 業務内容

2018年度からの第3期中期目標期間において、本法人は、会津大学と短期大学部がそれぞれの特性を生かした、教育、研究、地域貢献を行うことに加えて、東日本大震災からの復興、地方創生へ貢献することが求められている。

大学の最大の社会的役割は、高等教育機関として学生を受け入れ、育て上げ、社会人として、あるいは研究者として、世に送り出すことである。18歳以下人口の減少が顕在化する中、その遂行に不可欠な教育研究等の質を維持し、さらに向上させるためには、より多くの志願者を集め、かつ大学が求める入学者を確保することが重要である。

こうした中、会津大学は、県内外の効果的な高校訪問、入試制度の検証などに取り組み、短期大学部も入試・広報センターを中心に高校訪問、進学説明会等を実施し、それぞれの大学の魅力を伝え、理解を得る取組を重ねることで高い志願倍率を保っている。なお、2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、十分な高校訪問はできなかったが、代替手段として、ウェブサイトの情報の充実、オンラインでの進学相談会の実施、オンライン広告の掲載等を行った。また、両大学ともほぼ100%という就職率を維持していることに表れているとおり、教育の成果、教育内容への高い評価は確立していると考えている。

さらに、会津大学では、先端情報科学研究センター、AIセンターを中核として、戦略的な研究活動に取り組み、積極的な産学官連携により産業界等から外部研究資金の獲得を進めている。また、2019年4月に宇宙情報科学研究センターが文部科学省の「共同利用・共同研究拠点」に認定され、全国の研究者と共同研究を進めている。さらに、文部科学省のスーパーグローバル大学として採択を受けて、シリコンバレーインターンシップの実施など、開学以来の特長である国際性をより高める活動を行っている。

加えて、会津大学及び短期大学部は、県立の大学として地域貢献事業にも積極的に取り組んできており、東日本大震災以降は更なる復興への貢献という側面から、復興支援センターによるロボット技術開発支援事業や2019年9月の福島ロボットテストフィールドへの入居実現、地域活性化センターを核とした地域貢献など多岐にわたる活動を展開してきた結果、2020年12月、産学イノベーションセンター及び復興支援センターが経済産業省の「地域オープンイノベーション拠点(地域貢献型)」に、2021年3月、「女性ICT人材育成事業の実施を通じた女子活躍応援の取組み」が公益社団法人日本工学教育協会第25回(2020年度)工学教育賞に選ばれたところである。

以上のとおり、会津大学及び短期大学部は、第3期中期目標期間において、大学の基本的な目標の達成に向けて着実かつ的確に取り組んでおり、それは近年、国際的に著名な大学ランキングにおいて、会津大学が連続して上位にランクインし、国内はもとより世界レベルで高い評価を受けていることから表れている。

3. 沿革

1951年4月	会津短期大学開学
1957年4月	福島県立会津短期大学と名称変更
1980年4月	食物栄養科設置
1993年4月	会津大学開学 会津大学短期大学部に名称変更、産業情報学科設置
1997年4月	会津大学大学院博士前期課程（修士課程）設置
1999年4月	会津大学大学院博士後期課程（博士課程）設置
2002年4月	会津大学産学イノベーションセンター設置
2006年4月	公立大学法人へ移行
2009年4月	会津大学先端情報科学研究センター設置
2013年3月	会津大学復興支援センター設置
2015年4月	会津大学グローバル推進本部設置
2016年4月	短期大学部に幼児教育学科設置
2019年4月	会津大学宇宙情報科学研究センター設置

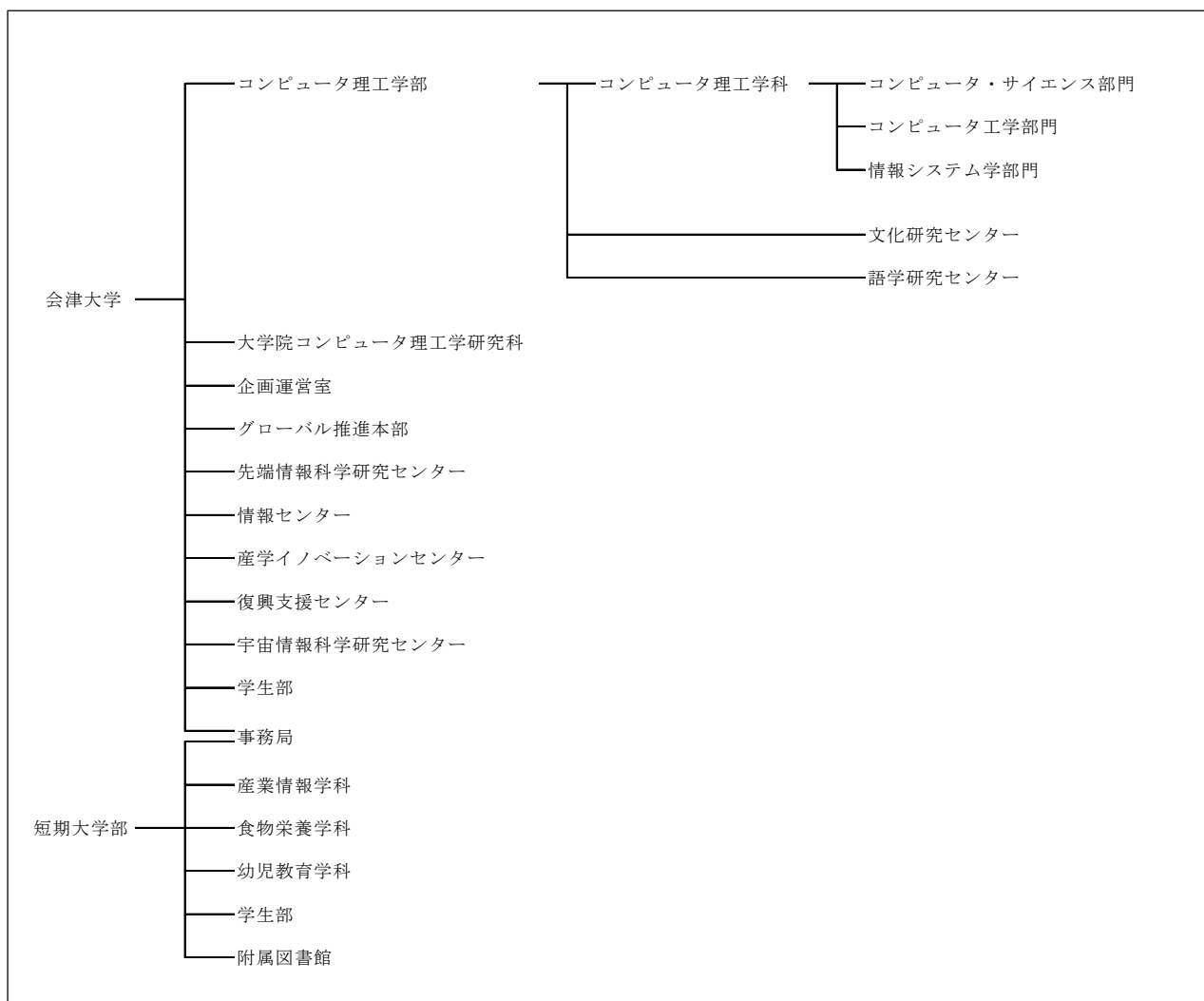
4. 設立に係る根拠法

地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）

5. 主務官庁

福島県

6. 組織図その他の公立大学法人等の概要



7. 事務所（従たる事務所を含む）の所在地

福島県会津若松市

8. 資本金の額

19,947,593,953円（全額福島県出資）

9. 在籍する学生の数（2020年5月1日現在）

総学生数	1,580人
会津大学	1,269人
学部	1,077人
大学院 博士前期	146人
博士後期	46人
短期大学部	311人
産業情報学科	130人
食物栄養学科	81人
幼児教育学科	100人

10. 役員の状況

役職	氏名	任期	経歴
理事長	宮崎 敏明	2020年4月1日 ～2024年3月31日	2005年4月 会津大学教授 2008年4月～2014年3月 会津大学大学院コンピュータ 理工学研究科コンピュータ・ 情報システム学専攻長 2014年4月～2020年3月 会津大学理事兼コンピュータ 理工学部長
副理事長 (研究担当)	趙 強福	2020年4月1日 ～2022年3月31日	1999年4月 会津大学教授 2010年4月～2012年3月 会津大学情報センター長 2012年4月～2020年3月 会津大学コンピュータ・サイ エンス部門長
理事 (総務・財 務担当)	永田 嗣昭	2020年4月1日 ～2022年3月31日	2019年4月～2020年3月 福島県教育庁政策監
理事 (教育・学 務担当)	束原 恒夫	2020年4月1日 ～2022年3月31日	2006年4月 会津大学教授 2012年4月～2016年3月、 2018年4月～2020年3月 会津大学学生部長

理事 (管理・渉外担当)	岩瀬 次郎	2007年4月1日 ～2022年3月31日	2002年4月～2007年3月 日本IBM(株)ソフトウェアエンジニアリング部長
理事 (短期大学部担当)	石光 真	2018年4月1日 ～2022年3月31日	1992年4月 会津短期大学講師 2005年4月 会津大学短期大学部教授 2013年4月～2018年3月 会津大学短期大学部産業情報学科長
監事 (非常勤)	船木 義男	2014年4月1日 ～2022年8月31日	船木義男法律事務所
監事 (非常勤)	佐藤 成	2016年4月1日 ～2022年8月31日	佐藤成会計事務所

11. 教職員の状況（2020年5月1日現在）

会津大学

教員 133人（うち常勤106人、非常勤27人）

職員 120人（うち常勤58人、非常勤62人）

（常勤教職員の状況）

常勤教職員は前年度比で1人（△0.6%）減少しており、平均年齢は46.3歳となっております。このうち、地方公共団体からの出向者は33人です。

短期大学部

教員 70人（うち常勤32人、非常勤38人）

職員 20人（うち常勤13人、非常勤7人）

（常勤教職員の状況）

常勤教職員は前年度比で1人（2.3%）増加しており、平均年齢は45.4歳となっております。このうち、地方公共団体からの出向者は6人です。

「Ⅱ 財務諸表の要約」

(勘定科目の説明については、別紙「財務諸表の科目」を参照願います。)

1. 貸借対照表 (<http://www.u-aizu.ac.jp/intro/outline/zaimu/>)

(単位：百万円)

資産の部	金額	負債の部	金額
固定資産	16,320	固定負債	3,067
有形固定資産	15,778	資産見返負債	2,918
土地	6,583	長期リース債務	136
建物	15,906	その他の固定負債	12
減価償却累計額等	△9,169	流動負債	1,107
構築物	1,121	未払金	474
減価償却累計額等	△867	短期リース債務	253
工具器具備品	2,224	その他の流動負債	379
減価償却累計額等	△1,614	負債合計	4,175
図書	1,495	純資産の部	
その他の有形固定資産	98	資本金	19,947
その他の固定資産	541	地方公共団体出資金	19,947
流動資産	2,304	資本剰余金	△7,355
現金及び預金	2,051	利益剰余金(繰越欠損金)	1,856
その他の流動資産	252	純資産合計	14,449
資産合計	18,624	負債純資産合計	18,624

2. 損益計算書 (<http://www.u-aizu.ac.jp/intro/outline/zaimu/>)

(単位：百万円)

	金額
経常費用(A)	4,713
業務費	4,244
教育経費	417
研究経費	464
教育研究支援経費	783
人件費	2,481
その他	97
一般管理費	458
財務費用	10
雑損	0
経常収益(B)	5,023
運営費交付金収益	3,270
学生納付金収益	966
その他の収益	786
臨時損益(C)	△11
目的積立金取崩額(D)	45
当期総利益(当期総損失)(B-A+C+D)	343

3. キャッシュ・フロー計算書 (<http://www.u-aizu.ac.jp/intro/outline/zaimu/>)

(単位：百万円)

	金額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー(A)	968
原材料、商品又はサービスの購入による支出	△1,114
人件費支出	△2,522
その他の業務支出	△416
運営費交付金収入	3,477
学生納付金収入	858
その他の業務収入	686
II 投資活動によるキャッシュ・フロー(B)	△369
III 財務活動によるキャッシュ・フロー(C)	△403
IV 資金増加額(又は減少額)(D=A+B+C)	195
V 資金期首残高(E)	1,855
VI 資金期末残高(F=E+D)	2,051

4. 行政サービス実施コスト計算書 (<http://www.u-aizu.ac.jp/intro/outline/zaimu/>)

(単位：百万円)

	金額
I 業務費用	3,533
損益計算書上の費用 (控除)自己収入等	4,728 △1,195
(その他行政サービス実施コスト)	
II 損益外減価償却相当額	372
III 損益外除売却差額相当額	25
IV 引当外賞与増加見積額	7
V 引当外退職給付増加見積額	10
VI 機会費用	14
VII 行政サービス実施コスト	3,964

5. 財務情報

(1) 財務諸表に記載された事項の概要

① 主要な財務データの分析 (内訳・増減理由)

ア. 貸借対照表関係

(資産合計)

資産の総額は、前年度比 2 億 2 千 7 百万円減 (△ 1. 2 %) (以下、特に断らない限り前年度比) の 1 8 6 億 2 千 4 百万円となっている。

資産のうち固定資産は、1 6 3 億 2 千万円であり、主な資産は、土地、建物及び教育研究機器等で、総資産額の 8 7. 6 % を占めている。

また、流動資産は 2 3 億 4 百万円で、主なものは現金及び預金 2 0 億 5 千 1 百万円である。なお、この中には、4 月に支払うこととなった未払金 4 億 7 千 4 百万円が含まれている。

資産の主な減少要因は、契約年数経過に伴い計算機システム等のリース資産が減少したことや建物等の減価償却によるものである。

(負債合計)

負債の総額は、1 億 6 千万円減 (△ 3. 7 %) の 4 1 億 7 千 5 百万円となっている。

負債のうち固定負債は 3 0 億 6 千 7 百万円であり、固定資産の未償却残高に対応する資産見返負債 2 9 億 1 千 8 百万円などを計上している。

また、流動負債は 1 1 億 7 百万円で、未払金 4 億 7 千 4 百万円、計算機システム等の短期リース債務 2 億 5 千 3 百万円などを計上している。

負債の主な減少要因は、リース契約の期間経過に伴い、長期リース債務が減少したことによるものである。

(純資産合計)

純資産の総額は、6千6百万円減(△0.5%)の144億4千9百万円となっている。

純資産のうち、資本金は、大学運営の基盤となる県からの土地・建物等の現物出資であり、総額は199億4千7百万円である。

資本剰余金は、△73億5千5百万円であり、その内訳は、県から譲与を受けた構築物等の資産に創明寮等目的積立金を財源に取得した資産を加えた19億6千9百万円、県出資等資産にかかる減価償却費累計額(会計基準により損益外処理)△93億2千4百万円である。

利益剰余金は、18億5千6百万円で、前中期目標期間繰越積立金(目的積立金)等に当期末未処分利益3億4千3百万円を加えた金額である。

純資産の主な減少要因は、建物等県からの出資財産に係る損益外減価償却によるものである。

イ. 損益計算書関係

(経常費用)

経常費用の総額は、4千8百万円減(△1.0%)の47億1千3百万円となっている。

経常費用の主な内訳は、教育研究経費16億6千5百万円、人件費24億8千1百万円、一般管理費4億5千8百万円である。

経常費用に占める人件費の割合は52.6%、教育研究経費は35.3%となっており、この2つで経常費用の87.9%を占めている。また、本法人においては、教育研究の基盤である計算機システムの機器賃借料・保守にかかる経費が大きい。

経常費用の主な減少要因は、施設設備の更新・修繕等工事のうち、費用として計上する修繕費が減少したことによるものである。

(経常収益)

経常収益の総額は、1千1百万円減(△0.2%)の50億2千3百万円となっている。

経常収益のうち、県からの運営費交付金収益が32億7千万円で経常収益の65.1%を占め、また、授業料や入学料等の学生納付金収益が9億6千6百万円で経常収益の19.2%を占めている。

経常収益の主な減少要因は、修繕工事の財源である運営費交付金収益が減少したことによるものである。

(臨時損益)

臨時利益から臨時損失を差し引いた臨時損益は、4百万円減(△62.9%)の△1千1百万円となっている。

臨時損益の主な減少要因は、修繕工事の実施による固定資産除却損が増加したことによるものである。

(目的積立金取崩額)

目的積立金取崩額は、施設改修経費等の財源として1億7千8百万円使用したうち、資産計上分を除く4千5百万円を計上したものである。

(当期総利益)

以上から、2020年度の当期総利益は、3億4千3百万円(対前年比5.9%、1千9百万円増)となったところである。

ウ. キャッシュ・フロー計算書関係

(業務活動によるキャッシュ・フロー)

業務活動によるキャッシュ・フローは1億1千7百万円増(13.8%)の9億6千8百万円となっている。

主な増加要因としては、施設設備の更新・修繕等工事のうち、費用として計上する修繕費が減少したことによりその他の業務支出が1億3千6百万円減少(△24.7%)したこと、補助金等収入が7千6百万円増加(22.2%)したことによるものである。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは1億7千9百万円減(△94.3%)の△3億6千9百万円となっている。

主な減少要因としては、施設設備の更新・修繕等工事における有形固定資産の取得による支出が2億1百万円増加(113.8%)したことによるものである。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは4百万円増(1.0%)の△4億3百万円となっている。

主な増加要因としては、契約年数経過に伴い計算機システム賃借料等に係る利息の支払額が5百万円減少(△36.3%)したことによるものである。

エ. 行政サービス実施コスト計算書関係

(行政サービス実施コスト)

行政サービス実施コストは8千2百万円増(2.1%)の39億6千4百万円となっている。

主な増加要因としては、対象教職員数等の変動に伴い引当外退職給付増加見積額が5千4百万円増加したことによるものである。

(表) 主要財務データの経年表

(単位：百万円)

区分	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
資産合計	18,867	18,451	19,322	18,851	18,624
負債合計	4,347	3,956	4,704	4,336	4,175
純資産合計	14,519	14,495	14,618	14,515	14,449
経常費用	4,845	5,117	4,609	4,761	4,713
経常収益	4,892	5,222	4,907	5,035	5,023
当期総損益	179	469	298	324	343
業務活動によるキャッシュ・フロー	592	458	1,182	851	968
投資活動によるキャッシュ・フロー	△97	△62	△317	△190	△369
財務活動によるキャッシュ・フロー	△428	△485	△418	△407	△403
資金期末残高	1,245	1,156	1,602	1,855	2,051
行政サービス実施コスト	4,127	4,359	3,753	3,881	3,964
(内訳)					
業務費用	3,719	3,962	3,447	3,552	3,533
うち損益計算書上の費用	4,846	5,117	4,619	4,769	4,728
うち自己収入	△1,127	△1,154	△1,171	△1,217	△1,195
損益外減価償却相当額	328	327	355	369	372
損益外減損損失相当額	-	-	13	-	-
損益外利息費用相当額	-	-	-	-	-
損益外除売却差額相当	-	1	1	1	25
引当外賞与増加見積額	4	8	4	3	7
引当外退職給付増加見積額	67	55	△68	△44	10
機会費用	9	6	1	1	14
(控除)設立団体納付額	-	-	-	-	-

② 目的積立金の申請状況及び使用内訳等

本法人においては、財務諸表の「利益の処分に関する書類(案)」のとおり、当期末処分利益のうち特殊要因の利益3百万円を「積立金」とし、また、これを除く3億3千9百万円を「目的積立金」として承認申請する予定である。

2020年度においては、教育研究向上、組織運営改善の目的に充てるため、1億7千8百万円を使用した。

(2) 重要な施設等の整備等の状況

① 当事業年度中に完成した主要施設等

該当なし

② 当事業年度において継続中の主要施設等の新設・拡充

該当なし

③ 当事業年度中に処分した主要施設等

学長公舎

④ 当事業年度において担保に供した施設等

該当なし

(3) 予算及び決算の概要

以下の予算・決算は、公立大学法人等の運営状況について、県の予算・決算ベースに表示しているものである。

(単位：百万円)

区分	2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	差額理由
収入	4,931	4,938	4,983	4,988	5,081	5,124	5,108	5,125	5,244	5,265	
運営費交付金収入	3,291	3,291	3,248	3,248	3,457	3,457	3,482	3,482	3,526	3,526	
補助金等収入	112	132	426	419	266	279	304	341	321	444	
学生納付金収入	894	883	908	901	920	910	920	900	927	867	
その他収入	634	632	401	420	438	478	400	401	470	428	
支出	4,931	4,545	4,983	4,720	5,081	4,699	5,108	4,727	5,244	4,781	(注1)
教育研究経費	3,102	2,783	3,006	2,679	3,217	2,868	3,069	2,899	3,098	2,858	
一般管理費	1,106	1,095	1,201	1,217	1,165	1,123	1,559	1,361	1,584	1,456	
その他支出	723	667	776	824	698	707	479	465	562	467	
収入－支出	0	393	0	268	0	425	0	398	0	484	

(注1) 人件費実績額の減少、光熱水費その他事務経費等の節減、入札による施設改修工事費の縮減等により、予算額に比べ463百万円の減少となっております。

「Ⅲ 事業に関する説明」

(1) 財源の内訳（財源構造の概略等）

本法人の経常収益は50億2千3百万円で、その内訳は、運営費交付金収益32億7千万円（65.1%（対経常収益比、以下同じ。）、授業料や入学料等の学生納付金収益が9億6千6百万円（19.2%）、その他7億8千7百万円（15.7%）となっている。

(2) 財務情報及び業務の実績に基づく説明

本法人は、会津大学及び短期大学部を設置・管理し、コンピュータ理工学、産業情報学、食物栄養学、幼児教育学の分野における人材の育成や研究等を通じて、学問や科学技術の進歩に寄与するとともに、産業・文化の振興に貢献してきた。

これに加え、東日本大震災からの復興、地方創生に貢献する事業を実施した。

事業実施財源については、(1)に記載したとおりとなっている。

(3) 課題と対処方針等

本法人では、運営費交付金収入が全体の65.1%を占め法人運営の基盤となっている。運営費交付金は、年々縮減されているため、第3期中期目標において「管理運営の改善及び効率化」を掲げ、事務等の効率化・合理化等による業務運営の改善や外部研究資金等の自己収入の増加による財務内容の改善などに取り組む。

具体的には、会議の回数削減や時間短縮、ペーパーレス化、事務手続きの省力化やシステム化を進める。

また、外部資金の獲得、大学施設等の有償貸し出し、知的財産からの収入増、寄附金の公募などにより収入の増加を図るとともに、予算編成時、発注時などあらゆる機会に経費の積算内容を点検・精査し、財務状況の分析などを通して経費の抑制を図る。

さらに、教育・研究に必要な施設・設備を継続的に提供できるよう、経年劣化が進む施設の計画的な修繕・改修を行うとともに、順次、機器等の更新を進める。

大学運営や最先端の教育研究を支える情報通信基盤を適切に整備するとともに、十分な情報セキュリティ対策を実施する。

「IV その他事業に関する事項」

1. 予算、収支計画及び資金計画

(1). 予算

決算報告書参照 (<http://www.u-aizu.ac.jp/intro/outline/zaimu/>)

(2). 収支計画

年度計画及び財務諸表（損益計算書）参照

（年度計画 <http://www.u-aizu.ac.jp/intro/outline/corporate/>）

（財務諸表 <http://www.u-aizu.ac.jp/intro/outline/zaimu/>）

(3). 資金計画

年度計画及び財務諸表（キャッシュ・フロー計算書）参照

（年度計画 <http://www.u-aizu.ac.jp/intro/outline/corporate/>）

（財務諸表 <http://www.u-aizu.ac.jp/intro/outline/zaimu/>）

2. 短期借入れの概要

該当なし

3. 運営費交付金債務及び当期振替額の明細

(1) 運営費交付金債務の増減額の明細

(単位：百万円)

交付年度	期首 残高	交付金当 期交付額	当期振替額				小計	期末 残高
			運営費交 付金収益	資産見返 運営費交 付金	特許権仮 勘定見返 交付金	建設仮勘 定見返運 営費交付 金		
2019年度	133	-	133	0	0	0	133	0
2020年度	-	3,477	3,137	53	△2	63	3,252	225
合計	133	3,477	3,270	53	△2	63	3,385	225

(2) 運営費交付金債務残高の明細

(単位：百万円)

業務等区分	2020年度 交付分	合計	残高の発生理由及び収益化等の計画
期間進行基準	0	0	
費用進行基準	225	225	人件費や施設整備費の執行残であり、翌事業年度以降で支出し、収益化する予定。
計	225	225	

■財務諸表の科目

1. 貸借対照表

有形固定資産：土地、建物、構築物等、公立大学法人等が長期にわたって使用する有形の固定資産。

減損損失累計額：減損処理（固定資産の使用実績が、取得時に想定した使用計画に比して著しく低下し、回復の見込みがないと認められる場合等に、当該固定資産の価額を回収可能サービス価額まで減少させる会計処理）により資産の価額を減少させた累計額。

減価償却累計額等：減価償却累計額及び減損損失累計額。

その他の有形固定資産：図書、工具器具備品、車両運搬具等が該当。

その他の固定資産：無形固定資産（特許権等）、投資その他の資産（投資有価証券等）が該当。

現金及び預金：現金(通貨及び小切手等の通貨代用証券)と預金（普通預金、当座預金及び一年以内に満期又は償還日が訪れる定期預金等）の合計額。

その他の流動資産：未収学生納付金収入、たな卸資産等が該当。

資産見返負債：運営費交付金等により償却資産を取得した場合、当該償却資産の貸借対照表計上額と同額を運営費交付金債務等から資産見返負債に振り替える。計上された資産見返負債については、当該償却資産の減価償却を行う都度、それと同額を資産見返負債から資産見返戻入（収益科目）に振り替える。

長期借入金等：事業資金の調達のため公立大学法人等が借り入れた長期借入金、PFI債務、長期リース債務等が該当。

引当金：将来の特定の費用又は損失を当期の費用又は損失として見越し計上するもの。退職給付引当金等が該当。

運営費交付金債務：設立団体から交付された運営費交付金の未使用相当額。

地方公共団体出資金：設立団体からの出資相当額。

資本剰余金：設立団体から交付された施設費等により取得した資産(建物等)等の相当額。

利益剰余金：公立大学法人等の業務に関連して発生した剰余金の累計額。

繰越欠損金：公立大学法人等の業務に関連して発生した欠損金の累計額。

2. 損益計算書

業務費：公立大学法人等の業務に要した経費。

教育経費：公立大学法人等の業務として学生等に対し行われる教育に要した経費。

研究経費：公立大学法人等の業務として行われる研究に要した経費。

教育研究支援経費：附属図書館等の特定の学部等に所属せず、法人全体の教育及び研究の双方を支援するために設置されている施設又は組織であって学生及び教員の双方が利用するものの運営に要する経費

人件費：公立大学法人等の役員及び教職員の給与、賞与、法定福利費等の経費。

一般管理費：公立大学法人等の管理その他の業務を行うために要した経費。

財務費用：支払利息等。

運営費交付金収益：運営費交付金のうち、当期の収益として認識した相当額。

学生納付金収益：授業料収益、入学料収益、入学検定料収益の合計額。

その他の収益：受託研究等収益、寄附金等収益、補助金等収益等。

臨時損益：固定資産の売却（除却）損益等。

目的積立金取崩額：目的積立金（前事業年度以前における剰余金（当期総利益）のうち、特に教育研究の質の向上に充てることを承認された額）の取り崩しを行った額。

3. キャッシュ・フロー計算書

業務活動によるキャッシュ・フロー：原材料、商品又はサービスの購入による支出、人件費支出及び運営費交付金収入等の、公立大学法人等の通常の業務の実施に係る資金の収支状況を表す。

投資活動によるキャッシュ・フロー：固定資産や有価証券の取得・売却等による収入・支出等の将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の収支状況を表す。

財務活動によるキャッシュ・フロー：増減資による資金の収入・支出、債券の発行・償還及び借入れ・返済による収入・支出等、資金の調達及び返済等に係る資金の収支状況を表す。

資金に係る換算差額：外貨建て取引を円換算した場合の差額相当額。

4. 行政サービス実施コスト計算書

行政サービス実施コスト：公立大学法人等の業務運営に関し、現在又は将来の税財源により負担すべきコスト。

業務費用：公立大学法人等の業務実施コストのうち、損益計算書上の費用から学生納付金等の自己収入を控除した相当額。

損益外減価償却相当額：講堂や研究棟等、当該施設の使用により一般に収益の獲得が予定されない資産の減価償却費相当額。

損益外減損損失相当額：公立大学法人等が中期計画等で想定した業務を行ったにもかかわらず生じた減損損失相当額。

損益外利息費用相当額：講堂や研究棟等、当該施設の使用により一般に収益の獲得が予定されない資産に係る資産除去債務についての時の経過による調整額。

損益外除売却差額相当額：講堂や研究棟等、当該施設の使用により一般に収益の獲得が予定されない資産を売却や除去した場合における帳簿価額との差額相当額。

引当外賞与増加見積額：支払財源が運営費交付金であることが明らかと認められる場合の賞与引当金相当額の増加見積相当額。前事業年度との差額として計上（当事業年度における引当外賞与引当金見積額の総額は、貸借対照表に注記）。

引当外退職給付増加見積額：財源措置が運営費交付金により行われることが明らかと認められる場合の退職給付引当金増加見積額。前事業年度との差額として計上（当事業年度における引当外退職給付引当金見積額の総額は貸借対照表に注記）。

機会費用：国又は地方公共団体の財産を無償又は減額された使用料により賃貸した場合の本来負担すべき金額等。